

## 2016年度 川崎市ふれあい館 付随事業報告～多文化事業推進に向けて

ふれあい館指定管理事業の枠を超えて、ふれあい館付随事業として以下の事業にとりくみました。

2016年度も引き続き、川崎区で起きた痛ましい中学生の事件を二度と起こさないために、中学生、高校生の居場所づくり事業に力点を注ぎました。ふれあい館が位置する川崎区には、経済的に困難な家庭、多言語情報を必要とする外国につながる多文化家族等、さまざまな「支援を必要とする子ども」が多く生活しています。館では、こうした青少年・若者の実態とニーズを受けとめながら、中学生～高校生～若者に向けた多様な事業を重点的に行ってきました。

### (1)ふれあい高齢者交流事業・相談事業

桜本保育園新園舎、ふれあい館を使って、高齢者のネットワークを結ぶ交流事業を推進し、健康の増進、体験的共同学習活動を行うとともに、寄せられる相談に寄り添う活動を行いました。

### (2)川崎区通訳翻訳事業(2016年度実績)

川崎区役所のこども支援室から委託された「川崎区通訳・翻訳バンク」事業は160件を予算内実施、それを越える220件の依頼について、対応しました。

### (3)川崎市学習支援・居場所づくり事業(内 生活保護世帯以外はふれあい館自主事業)

#### ★健康福祉局連携事業

こどもの貧困対策事業として、川崎市健康福祉局からの委託事業として、生活保護家庭の中学3年生を事業対象にして2012年度開始。また、対象外の中学1年生、2年生も、経済的な理由で学習塾に行けない子を対象に、自主的に取り組んでいます。内、日本生まれや、外国につながるこどもも3割を占めます。

●参加生徒:64名(うち生活保護家庭36名、その他28名)実施回数:89回

・週2回 18:30～20:30\*基礎学力の充実、学習意欲を高める関係づくり、悩み・進路相談

・桜本中、田島中、臨港中、京町中、富士見中、川崎中、川中島中、南大師中、大師中、渡田中

### (4)外国につながるこどもの学習サポート(概ね渡日約3年以内のこども)

#### ★青丘社自主事業(WAM助成金「社会福祉医療機構」、講習費一部徴収)

来日3年以内のこどもたちを対象に、小学生、中学生(含む学齢超過者)の学習支援を、横浜・多文化共生教育ネットワークかながわ、鶴見のABCジャパンと3団体協働で、WAM助成金を得て実施しました。2017年度から小中学生の学習サポートは「いきいきかわさき区提案事業」に公募し区役所と共同主催で実施。

●参加総数56名(小学生・中学生:週2回 実施回数:90回×2)

・小学生22名・中学生18名(川崎区)・桜本中、川中島中、田島中、臨港中、富士見中、川崎中

・学齢超過者8名(全市:火、木、金 10:00～16:30)・高校生8名

(民族ルーツ:中国・フィリピン・ペルー・ブラジル・韓国・タイ・ベトナム 7か国)

(5) 高校生・若者プロジェクト<地域の高校生世代以上の若者が不安定な生活状況に陥り、孤立することのないよう、若者の居場所づくり等の事業を行い、試行をすすめています。>

#### ①ぽちっとカフェ ★川崎市教育委員会委託事業

定時制高校は中途退学する生徒が多く、中退後に不安定な生活に陥ってしまう事が多いため、市立川崎高校定時制で「ぽちっとカフェ」という名称で定時制高校生の居場所づくり、学習支援を行ないました。

●参加生徒:のべ2,354名、実数211名(生徒の60.3%が利用) 実施回数:35回(2016年度)

②桜本フェス(高校生、若者たちを中心とした音楽イベント)★ふれあい館自主事業2016年度・150名

\*<2017年度新規事業> 県立川崎高校、県立大師高校、多文化教育コーディネーター派遣

#### 多文化事業推進に向けた課題

①上記の川崎区通訳・翻訳事業、川崎市学習支援・居場所づくり事業、外国につながる小中学生学習サポート事業は、ここ数年、桜本中学校区を超えて、川崎区全体からの要請、相談、こども参加が増加し、ふれあい館職員がコーディネートしています。こうした事業をふれあい館指定管理の枠組みに位置づけていくよう、担当局との話し合いをすすめています。

②外国につながる多文化家族は、桜本を中心とした臨海地域及び、駅前繁華街を中心とした地域に、集住化がすすんでいます。そのため、外国人相談や学習支援の拠点として、既に横浜市各区で運営されている「多文化共生ラウンジ(仮称)」の設置が、川崎市でも必要とされています。青丘社の事業実績を担保に、川崎区役所、川崎市国際交流センター等と連携しながら、駅前「多文化共生ラウンジ」構想に向けて、実践強化、協働事業をすすめます。